

令和5年度 評価充実協議会 | 公益財団法人 日本高等教育評価機構

学修成果と内部質保証の取組み

令和5年7月11日

甲南女子大学学長 秋元 典子

1.甲南女子大学の概要

2.学修成果の点検・評価

3.内部質保証のためのPDCAサイクル

1.甲南女子大学の概要

2.学修成果の点検・評価

3.内部質保証のためのPDCAサイクル

甲南女子大学の概要

【1920年 甲南高等女学校】として創立

“官立にない自由な校風の私立女学校を”

▼
【1964年 甲南女子大学】が開学

建学の理念

建学の精神

まことの人間をつくる

校訓

清く 正しく 優しく 強く

教育方針

全人教育 個性尊重 自学創造

創立者



安宅 彌吉

現在の甲南女子大学

- 所在地 兵庫県神戸市
- 大学（5学部11学科）
文学部 国際学部 人間科学部
看護リハビリテーション学部
医療栄養学部
- 大学院（2研究科4専攻）
人文科学総合研究科 看護学研究科
- 入学定員 1,028名
- 大学機関別認証評価 2008年、2015年、2022年受審 すべて「適合」



生き抜く力を持つ自律した女性を育成する大学

本日の内容

1. 甲南女子大学の概要

2. 学修成果の点検・評価

3. 内部質保証のためのPDCAサイクル

第三期認証評価の評価基準

❖ 第二期の評価基準

基準 1 使命・目的等

基準 2 学修と教授

基準 3 経営・管理と財務

基準 4 自己点検・評価

❖ 第三期の評価基準

基準 1 使命・目的等

基準 2 学生

基準 3 教育課程

基準 4 教員・職員

基準 5 経営・管理と財務

基準 6 内部質保証

主な変更点

1. 教育の質保証のため**学修成果**を重視し、評価基準 2～4 に細分化
2. **内部質保証**機能を重点評価項目として評価基準 6 が追加

大学に求められる学修成果

■ 学修成果とは

授業科目、教育課程などにおける所定の学修期間終了時に、学生が獲得し得る知識、技術、態度などの成果のこと

<2019年度大学・短期大学評価セミナー資料より>

■ 自己判定の留意点（基準項目3-3「学修成果の点検・評価」要約）

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか
- 学修成果を点検、評価する測定方法を定めているか
- 点検した結果を教育内容・方法の充実や改善に繋げているか

➡ これらを満たしていることが、学修成果の点検・評価に必要不可欠であることを教職員でも共有

学修成果の点検・評価に係る主な取組み

①

ディプロマ・ポリシーの見直し

②

みらいパスによる学修成果の可視化

③

授業評価アンケートの実施

④

アセスメントテスト (PROG^{※1}) のフィードバック

※1 : Progress Report On Generic Skillsの略称。

① ディプロマ・ポリシーの見直し（その1）

- 第5次中期計画における教育方針の柱「未来への実践力」の実質化

生き抜く力を持つ自律した女性を育成する大学



生き抜く力：自律的に判断し責任ある発言と行動をする力



「未来への実践力」



学部学科によらず、甲南女子大学を卒業する学生全員に必要な力
全学ディプロマ・ポリシーと位置付け、各学科のディプロマ・ポリシーの中で、4つの学士力に基づき、さらに具体化

① ディプロマ・ポリシーの見直し（その2）

- 具体化にあたっては、学生が学修成果の目標として理解できるよう、具体的で明確な内容に変更することを、全学の方針とした



【全学・学科ディプロマ・ポリシーの構造】



① ディプロマ・ポリシーを見直す際のポイント

● 学生の学修成果の目標として「**具体的**」であることの判断基準

- ！ 学生が学科の学びを通じて「何ができるようになるか」を明示しているか
- ！ 学生の進路先（社会等）における、顕在ニーズ、潜在ニーズを反映しているか
- ！ 卒業時の理想像ではなく、最低限身につけるべき能力を記載しているか

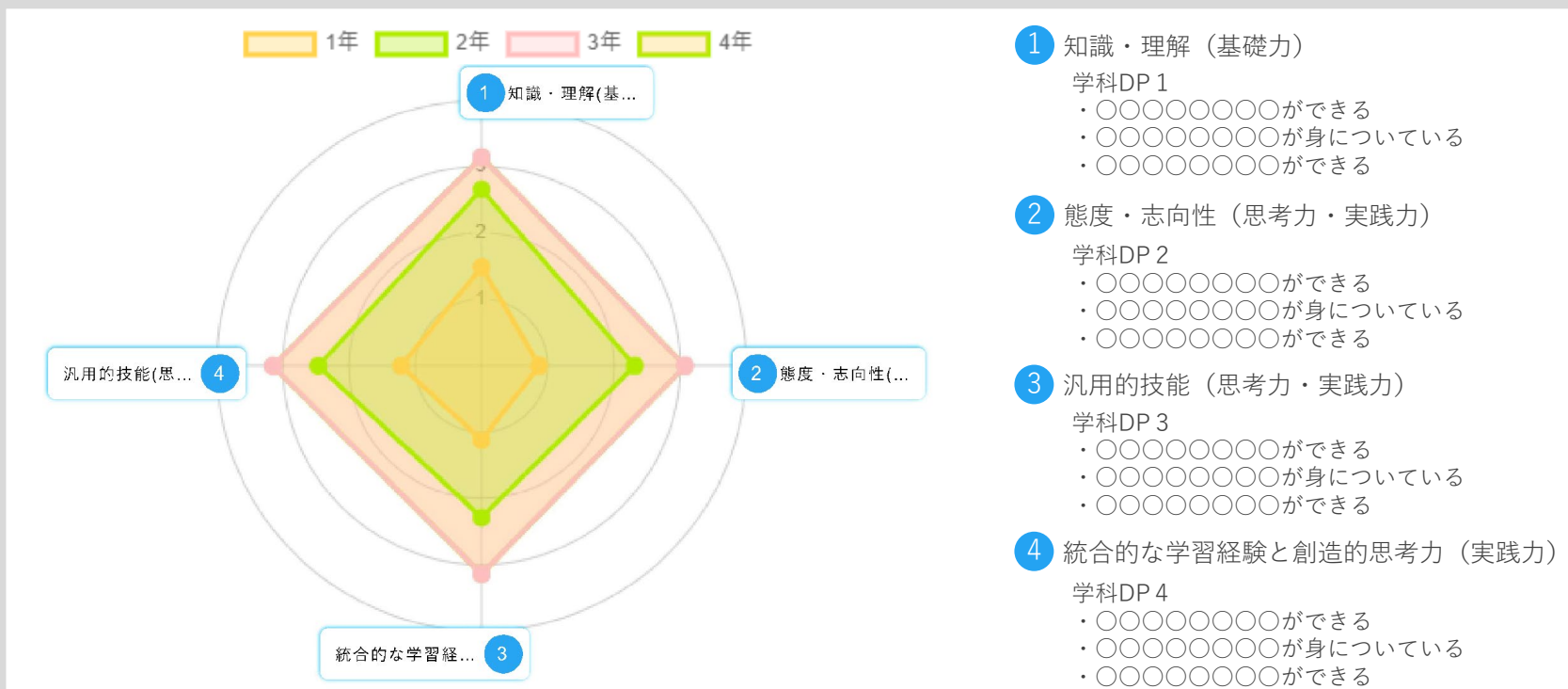
● 学生の学修成果の目標として「**明確**」であることの判断基準

- ！ 文末が「～できる、～を身につけている」等の未来完了形であるか
（～を身につける、は完了していない）
- ！ 一文に多くの行為動詞を混ぜていないか
- ！ 本学の学生が理解できる、平易な文言を使用しているか

② みらいパスによる学修成果の可視化

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を、**レーダーチャートで示すシステム**
「みらいパス」により、半期ごとに学修成果を確認。

【みらいパス レーダーチャートイメージ】



② みらいパスとカリキュラム・マップの連動

- カリキュラム・マップにより、授業科目とディプロマ・ポリシーの関係性を明示

【カリキュラムマップイメージ】

全学共通科目

							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○用は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アタフィワーニングの実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
大学を知る	入学オリエンテーション2時間・学科会2時間 (学長・副学長・同世代)4～6時間 (別)	新入生が甲南女子大学の歴史を学び、また卒業生たちが本学で学んだことがどう社会で活躍しているかを知ることを目的とする。このほか、大学で何ができるのか、今後の大学生活の過ごし方などについて、自らの経験からアドバイスをする。	2	1	前期	1	なし		○	○	
アカデミック		大学生活において必要なコミュニケーションスキルを身に付け、授業で学んだ内容を的確に伝える。聞く・伝える・書く・読む・コミュニケーションスキルを身に付ける。				1	なし	◎	○	○	○
グループ討議		授業では、「自分」の経験や知識を基に、他者の経験や知識を尊重しながら、お互いの考えを共有し、課題を解決するためのディスカッションとディベートを通じて学ぶ。				2	なし				○
リーダーシップ開発Ⅰ	4人程度のチームで実社会の課題を題材にしたビジネスコンテストに取り組みることにより、基本的な学習スキルを習得するとともにリーダーシップを実践的に学ぶ。授業外グループワークを含めて、課題に関する調査、ディスカッション、資料作成、プレゼンテーションを行った後、チームでの相互フィードバックと行動の振り返りを行うことで、各自の特色を活かした「自分らしい」リーダーシップ発揮の仕方に持論を持つことを目指す。 ここでいうリーダーシップとは、社長や権限を持つ人だけが発揮するものではなく、大学、サークル、アルバイトなど大学生活の様々な場面で誰もが発揮でき、伸ばすことができる能力を指す。 この授業では教員とともに先輩学生である学習アシスタント(LA)が司会進行やアドバイスをを行い、各自のリーダーシップの学びをサポートする。	リーダーシップ行動をそれぞれリーダーシップ3要素に正しく分類できる。 授業内の経験を元に、リーダーシップ3要素を基としてリーダーシップスキルの成長を1分以内で口頭説明することができる。 自分の強み、弱みと授業内の経験を元に100字以上で説明することができる。 論理思考で用いた「私は、なぜ、ら、い、は、い」を適切に活用できる。 チームで作成したビジネスプランの概要と授業内容を150字以上で説明することができる。 再度同じチームでビジネスコンテストを行う場合の改善行動を100字以上で説明することができる。	2	1～	前期	1	プロジェクト型学習、経験学習、グループワーク、プレゼンテーション	△	○	○	◎

授業科目

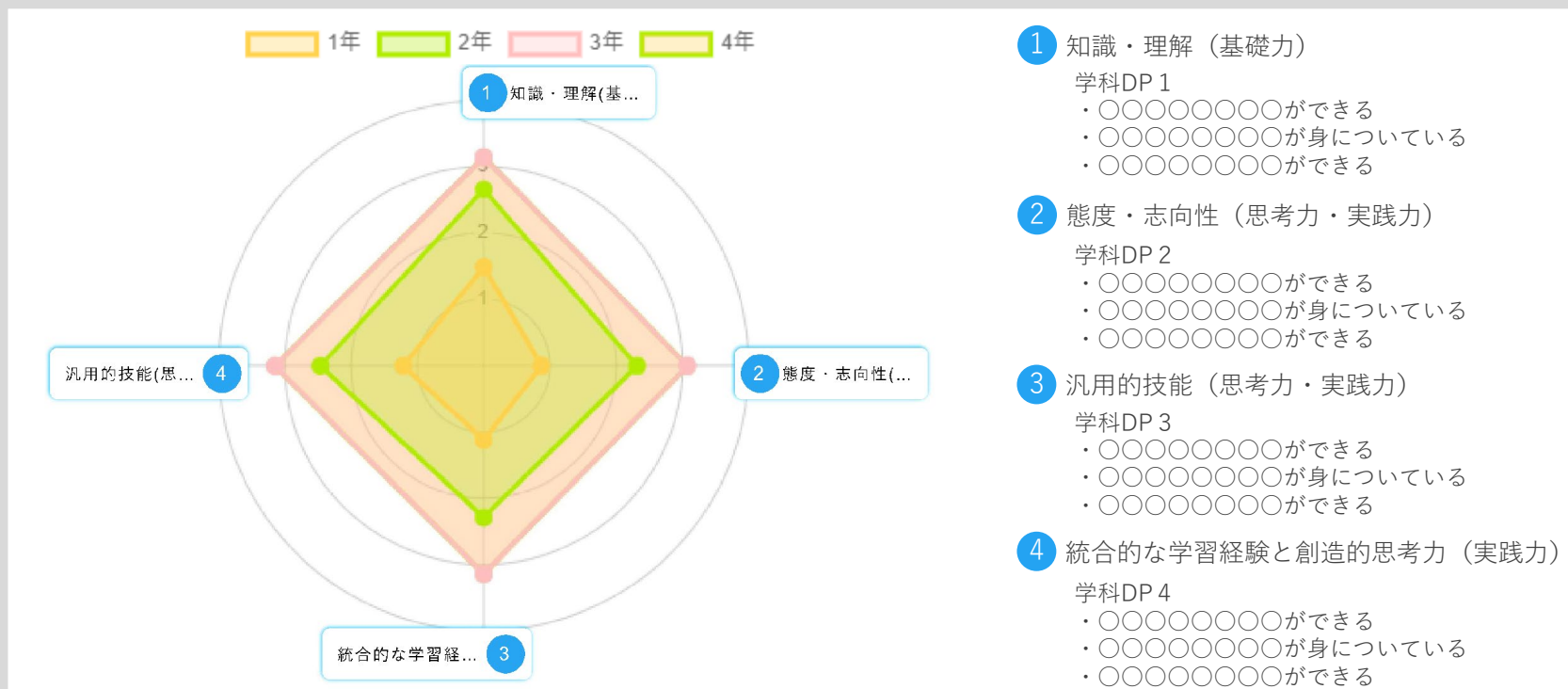
到達目標

DPに基づく
4つの学士力

② 次の成長に向けて（みらいパスの活用）

- 学生は、前期後期の授業開始前にみらいパスのレーダーチャートを確認することで、自分のディプロマ・ポリシーの達成度を把握し、また、カリキュラム・マップに基づき、次の成長に向けて、履修計画を立てる

【みらいパス レーダーチャートイメージ】

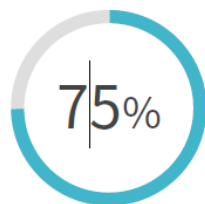


③ 授業評価アンケートの実施

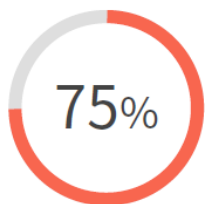
- 全学生、全科目を対象に、**年4回の授業評価アンケート**を実施。
- 学修成果の把握と授業改善に繋げるよう、教職員及び学生にフィードバック。

【フィードバック内容の一例】

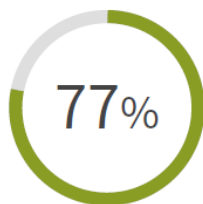
授業に対する学生の皆さんの声



授業に満足した



授業が理解できた



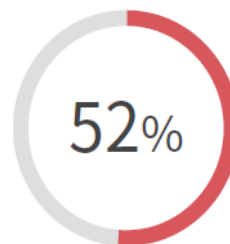
授業に興味をもてた

回答の**約4分の3**が授業に対して高評価

急なお願いにも関わらず、ご協力いただき本当にありがとうございました！

アンケートから見えた改善すべき点

1 課題に対するフィードバック



フィードバックが適切だ
と感じていない学生

学生VOICE

- 課題に対する解説がない
- 改善点ばかりで、良かった点を教えてくれない
- 他の学生の意見や回答も知りたい

④ アセスメントテスト(PROG)のフィードバック

- 全学科1・3年生を対象にジェネリックスキルを測定するアセスメントテスト(PROG)を実施。
- フィードバックにより学修成果を明示、**教育課程や教授方法の改善**に活用。

【アセスメントテスト(PROG)で測定しているジェネリックスキル等】



学修成果の点検・評価に係る取組み

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか
- 学修成果を点検、評価する測定方法を定めているか
- 点検した結果を教育内容・方法の充実や改善に繋げているか

①

ディプロマ・ポリシーの見直し

②

みらいパスによる学修成果の可視化

③

授業評価アンケートの実施

④

アセスメントテスト(PROG)のフィードバック

1.甲南女子大学の概要

2.学修成果の点検・評価

3.内部質保証のためのPDCAサイクル

求められる内部質保証

■ 内部質保証とは

自らの責任で自主的・自律的な自己点検・評価を行い、その結果をもとにした自己改善により、三つの方針を起点とする教育研究活動及び中長期的な計画を踏まえた大学運営全般の質を保証すること

<2019年度大学・短期大学評価セミナー資料より>

■ 自己判定の留意点（要約）

- 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか
- 自主的・自律的な自己点検・評価を実施し、改善に反映しているか
- IRを活用した十分な調査やデータ分析を行っているか
- 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われているか

内部質保証を担う主な委員会組織

推進

内部質保証委員会

委員長：学長

教育研究、管理運営等の自主的・自律的な**質保証への取組みを推進**する

点検・評価

大学評価委員会

委員長：学長

全学的観点に立って**自己点検・評価**及び認証評価を行う

調査・分析

IR活動委員会

委員長：IR委員長

学生の学修活動に係る**情報収集及び学修支援の取組み**を組織的に行う

内部質保証委員会の役割

➤ 目的（規程第1条より抜粋）

教育研究、管理運営等の自主的・自律的な**質保証への取組みを推進する**

■ 審議事項

- (1) 教育目標に関する事項
- (2) IR、教学情報等に基づく教育の質向上に関する事項
- (3) 3つのポリシーを起点とする教育の質保証に関する事項
- (4) 中長期の計画を踏まえた大学全体の質保証に関する事項
- (5) その他内部質保証に関する事項



審議事項の (1) ～ (3) は教育の質保証に関する事項
(4) ・ (5) は大学全体の質保証に関する事項


大学評価委員会の役割

➤ 任務（規程第4条より抜粋）

本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営、財政等の各状況について、**全学的観点に立って自己点検・評価及び認証評価を行い、その結果を公表する**

■ 審議事項

- (1) 自己点検・評価に関する事項
- (2) 認証評価全般に必要な事項

 委員会は任務を遂行するため、それに係る各機関に対して協力を求めることができる。


IR活動委員会の役割

➤ 目的（規程第1条より抜粋）

学生の学修活動に係る**情報収集及び学修支援の取組み**を組織的に行う

■ 審議事項

- (1) 学修活動に係る調査、分析及び報告に関する事項
- (2) 学修支援の取組みに関する事項

 IR活動委員長は、審議された事項について、必要に応じて学長に報告しなければならない

学修成果の点検・評価に係る取組み

- 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか
- 自主的・自律的な自己点検・評価を実施し、改善に反映しているか
- IRを活用した十分な調査やデータ分析を行っているか
- 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われているか

推進

内部質保証委員会

委員長：学長

点検・評価

大学評価委員会

委員長：学長

調査・分析

IR活動委員会

委員長：IR委員長

「優れた点」として評価された内容

- 学長のリーダーシップのもと、内部質保証を全学的かつ効果的に推進し、中期計画・年度計画のPDCA サイクルと連動させ、着実な進展を図っている点は、高く評価できる。



ご清聴ありがとうございました



事例発表1 「学修成果と内部質保証の取組み」

【講師 秋元 典子 氏 略歴】

◆秋元 典子（あきもと のりこ）氏

- ・甲南女子大学学長
- ・略歴：徳島大学教育学部卒業、聖路加看護大学大学院修士課程修了、千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。

岡山大学大学院保健学研究科教授、甲南女子大学教授・副学長・看護リハビリテーション学部長などを経て、令和4年度から現職。

専門分野は、がん看護学・周手術期看護学。著書に『看護の約束－命を守り、暮らしを支える－』（ライフサポート社）など。

以上